



チェンマイ大学

Chiang Mai University



●学部学生 約27,000人 ●大学院生 約7,700人 ●教職員 約11,000人

ホームページ <http://www.cmu.ac.th/>

交流協定締結年月日：1990年4月24日 主管学部：農学部



チェンマイ大学正門



第7回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウム



看護学部学生IO長表敬訪問

国際交流の特色

タイ北部のチェンマイ市（首都バンコクから北に飛行機で1時間）に位置する。1964年にタイ北部に最初に設立された高等教育機関として、教育、研究、地域貢献、国民文化・環境の保全に多大な実績を上げてきた。タイの大学ランキングで教育と研究の両面で最高レベルの評価を受けている。2014年に創立50周年を迎えた。市内3ヶ所と周辺1ヶ所を合わせたキャンパスは、1400haと広大である。20学部と3研究所を有し、学部生約27,000人、大学院生約7,700人が在籍する。キャンパス内に学生寮のビル群がある。留学生用の上級な寮もある。近年の国際化は目覚しく、ASEANのハブ大学としてラオス、カンボジア、ベトナム等の周辺国から積極的に学生を受入れている。人文学部には日本語学科に加えて日本研究センターもある。チェンマイは京都のように美しい古都であり、文教と観光の都市である。標高は約300mあり、バンコクに比べて気候は涼しく、日本人には暮らしやすい。

交流実績（平成27年度～29年度）

年度	教育学部			経済学部			法学部			創造工学部		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
受入・派遣												
学生を受入	8	8	6	0	4	0	0	0	0	0	0	0
学生の派遣	11	10	6	10	13	5	4	1	0	10	6	9
研究者・職員の受入	2	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
研究者・職員の派遣	4	3	3	4	2	1	0	0	0	4	6	2

年度	農学部			医学部医学科			医学部看護科			インターナショナルオフィス		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
受入・派遣												
学生を受入	21	2	1	4	4	5	6	4	6	1	0	0
学生の派遣	66	1	0	5	1	3	6	5	6	8	0	0
研究者・職員の受入	14	15	1	13	3	5	1	1	1	0	2	5
研究者・職員の派遣	3	2	1	3	22	4	1	9	3	2	0	0

教員・学生からの声

教育学部とCMUの人文学部は2011年2月に細則を結びました。5年前から、毎年3月にチェンマイ大学人文学部に学生を連れて行きます。約2週間程度の異文化交流プログラムの特徴は下記の通りです。1) バディー制度。タイでの活動は主にCMUの学生と一緒にです。2) チェンマイで日本語を勉強している高校生の家族とのホームステイ。3) タイの地方の小中学校を訪問し、3泊4日の交流・ホームステイ。4) CMUでCMUの教員によるタイ文化・歴史・経済・少数民族等の授業を受ける。5) 事前研修で、出発する前にタイ語の授業を3回開いてからタイに行く。6) CMUの学生を香川大学で受け入れる。7) 附属学校での授業参加・タイ文化・タイ語の紹介等。8) 教育学部での授業参加。教員を目指している学生にとっても、コミュニケーション能力を育成するのにとても役立ちます。平成28年度第6回共催シンポジウムに向けて、今後も両校の交流がより盛んになることを期待しています。

教育学部准教授 ポール・バテン

チェンマイ大学は多種多様で自由な大学です。数多くの学部学科があり、様々な国籍の学生が多くいます。私はチェンマイ大学に社会学部生として留学しましたが、経済学や人文学、政治学等のクラスを受けました。ですので、様々な学部の先生に教えてもらい、より幅の広い知識・経験を積むことが出来ました。また、チェンマイ大学は敷地面積が広いことも魅力的です。広大なキャンパスを大学の無料バスで行き来する生活は、日本ではなかなか味わえなかったと思います。そして、タイでは日本のことが好きな方が多いので、大学やお店等で会う方々にはとても喜んで接してもらえました。日本や日本人のことを、タイの方がどのように思っているかを実感できるよい機会でした。チェンマイ大学生として4ヶ月間生活出来たことは、今でも本当によい経験だったと思っています。

法学部4年生 東 祐太郎

4年前から香川大学経済学部とチェンマイ大学経済学部間において、お互いの学部学生及び教員のShort Visitの交流を行っています。今年度も5月にチェンマイ大学経済学部は4名の学生のShort Visitを9月に香川大学経済学部は学生のShort Visitを考えています。学生の来日の時には教員も同行し、未来の共同研究成果についての発表会及び打合せも行っています。また、チェンマイ大学経済学部では毎年8月にアジア経済発展の学会および1月にInternational Conference of the Thailand Econometric Societyを予定しており、香川大学経済学部の教員は、2、3年前から参加を考えています。最後に、香川大学経済学部の学生数人はチェンマイ大学にLong Visit（6ヶ月）にも行っています。8月のJoint Symposiumの後には、お互いの交流にもっと期待ができると思います。

経済学部教授 ラナデ. R. R

私は、チェンマイ大学医学部への留学に関して、これから多くの後輩たちに勧めたいと考えています。もちろん、留学に行くことで医学に関する学びを多く得られるためという理由もちますが、もう一つの理由は、留学のしやすさ、親近感です。

お世話になったとある現地の看護師さんは、「日本とタイは、目上の人や相手を敬うという点で共通している」と語っていました。確かに、日本人にとってタイの方々はとても親切である上に考え方や相手を敬い、もてなすという部分での感覚が非常に近いと感じました。

現地の良さを知るのみでなく、留学に行くことにより日本の特徴や良さを知ることができるのも留学の醍醐味の一つです。ぜひ、一人でも多くの後輩に同じ経験をしてもらいたいです。

医学部6年生 酒井 善紀

2012年3月に医学部看護学科は、チェンマイ大学看護学部と学術交流協定に関する実施細則を締結しました。その後、双方向での交流が開始され、今年度はチェンマイ大学から6名の学部生と1名の教員が、本学からも5名の学生と教員が短期留学により、お互いの大学および附属病院を訪問しました。短期間の交流ですが、双方ともお互いの看護や医療を学び、そして文化を体験しながら、そして何よりも、それぞれの学生と教員が一緒に強い絆を深めており、年々充実した交流活動になって来ています。2018年度には、チェンマイ大学と香川大学のジョイントシンポジウムも予定されています。また、看護職者間の共同研究も少しずつ進みつつあります。さまざま、ご協力いただいている皆様へ感謝申し上げます。

医学部看護学科教授 谷本 公重

創造工学部は、都市環境コースを中心に数多くの先生が研究面、学生の研究と交流がなされており、10年以上の交流があります。2017年度は、当コースの学生12名と教員2名が4日間の予定で工学部を訪問しました。当方の学生6名がチェンマイ大学工学部学生に向けて、英語による研究発表を行いました。チェンマイ大学側も、同様の発表を行い、学生同士の良き交流となりました。さらに、タイの建設現場の見学なども行い、建設業の違いを学びました。チェンマイ大学との共同研究は、ステューパと呼ばれる仏塔の耐震性を調べるために加速度計を設置し、地震観測を2015年から観測を行い、得られた観測波形から仏塔の特性を求める研究をチェンマイ大学と共同で行っています。また、交通計画の共同研究も進んでおり、ますますの研究交流が進んでおります。

創造工学部教授 松島 学

本学とチェンマイ大学(CMU)との学術交流協定の締結後に、二度のJICAプロジェクト(1993-98, 2003-06)で、多くの教員・研究者が往來して植物バイオテクノロジーや省農業技術の指導・研修が行われ、これが希少糖、生物資源利用、農業経済、植物病理・栄養、昆虫等の多様な共同研究に進展しています。CMUの農・農産・理の3学部から多数の優秀な留学生を受け入れ、特に2002年からのAAP特別コースによってその数が増えました。派遣留学の人気も高いです。両大学間の広範で多数の交流実績に基づき、本学はCMUを海外国際交流拠点校と定め、そのプラットフォームとしての合同シンポジウムの開催を2007年からCMUにて始め、農・工・医学部等の教職員・学生45人が参加しました。その後、交流は文系3学部等にも拡大し、2回目を2008年に本学にて(CMUの43名を招聘)実施し、以降隔年で交互に開催しています。2009年からの農学研究科のアジア人財資金構想事業以降、食の安全を学ぶ留学生を輩出し、JASSO支援のSSやSVプログラムの実績も挙げました。修士課程のダブルディグリープログラムが2012年から(CMUは農学と農産学の2研究科)始まり、CMU(本学では花き園芸学)と本学(昆虫生態学)の双方向で修士生を輩出し、さらにいろいろな分野(植物病理学、食品化学、応用酵素化学)の参加学生が修学中です。

農学部教授 片山 健至

インターナショナルオフィスは、全学共通科目の授業の一環として、平成24年から毎年、学生を同大学へ2週間ほど引率してコミュニケーション能力向上の研修を実施しています。他に派遣に関しては、毎年2、3名の学生を同大学社会学部に派遣できるようになりました。受け入れは、日本語初級と英語による授業を含むSanuki Programという受け入れプログラムを実施して、日本語能力を有しない特別聴講学生を受け入れています。平成28年度前期までのチェンマイ大学からの実績は2名となっています。

インターナショナルオフィス教授 ロン・リム